

個人開発企画書 / PROPOSAL

キャッシュレス決済分析アプリ

複数人の支出CSVを匿名化・正規化し、全体平均との差を比較するWebアプリ

作成日	2026年7月15日	状態	企画・設計/UIプロトタイプ
作成者	g024c1036村田悠月		

企画要旨

PayPay・JCB・三井住友VISAのCSVを共通形式へ変換し、本人の月次支出を匿名化された全体平均と比較できるサービスを企画する。目的は他人の明細を見ることなく、自分の支出傾向を客観的に把握できるようにすること

1. 現状・問題・課題

- 支出履歴が決済サービスごとに分かれ、月全体の傾向を把握しにくい。
- CSVごとに文字コード、ヘッダー位置、列構成が異なり、そのままでは比較できない。
- 自分の支出が多いか少ないかを判断する比較軸がなく、明細共有にはプライバシー上の問題がある。

2. 提案

提案内容：利用者がCSVを任意にアップロードし、システムが形式判定・正規化・月次集計を行う。本人には自分の明細と集計を表示し、比較には個人を特定できない全体集計だけを用いる。

対象者：複数の決済サービスを利用し、自分の支出を集団平均との差で把握したい利用者。。

3. 開発方針

最初から機能を広げず、PayPay・JCB・三井住友VISAの取込、月次集計、匿名比較、取込エラー確認までをMVPとする。完全自動化よりも、CSVから正確なデータを取得できることを優先する。

. 企画内容（MVPで実装する最低限）

- 1. Cognitoでログインし、一般ユーザーと管理者を分ける。
- 2. PayPay・JCB・VISAのCSVをアップロードする。
- 3. CSV形式を判定し、日付・金額・支出先・カテゴリなどを共通形式へ正規化する。
- 4. 本人の月間支出、カテゴリ別支出、支払い方法別支出、取引件数、前月比を集計する。
- 5. 本人の集計結果と、匿名化された全体平均との差を表示する。
- 6. 管理者には全体集計、取込状況、エラー件数・失敗行だけを表示する。

対応CSVと取込上の違い

データソース	文字コード	取込上の注意
PayPay	UTF-8	1行目にヘッダーがあり、取引日・金額・取引先などを利用する。
JCB	Shift_JIS	先頭のメタ情報を読み飛ばし、明細ヘッダーから取り込む。
VISA	Shift_JIS	先頭のカード情報系メタ行を除き、明細を固定列として扱う。

4. システム構成

Web画面 → Cognito認証 → API Gateway → Lambda（検証・正規化・集計） → Dynamo DB（正規化済み取引・個人集計・匿名集計） → 月別比較レポート

AWSは認証、権限制御、保存、集計、監視、暗号化の実行基盤として利用する。CloudWatch LogsにはCSV全文や個人情報を出力しない

5. 完成条件

- 3種類のCSVを取り込み、正規化済みデータを保存できる。
- 本人の月別レポートと匿名化された全体平均との差を表示できる。
- 他人の生明細、CSV原本、氏名、カード番号を保存・表示しない。